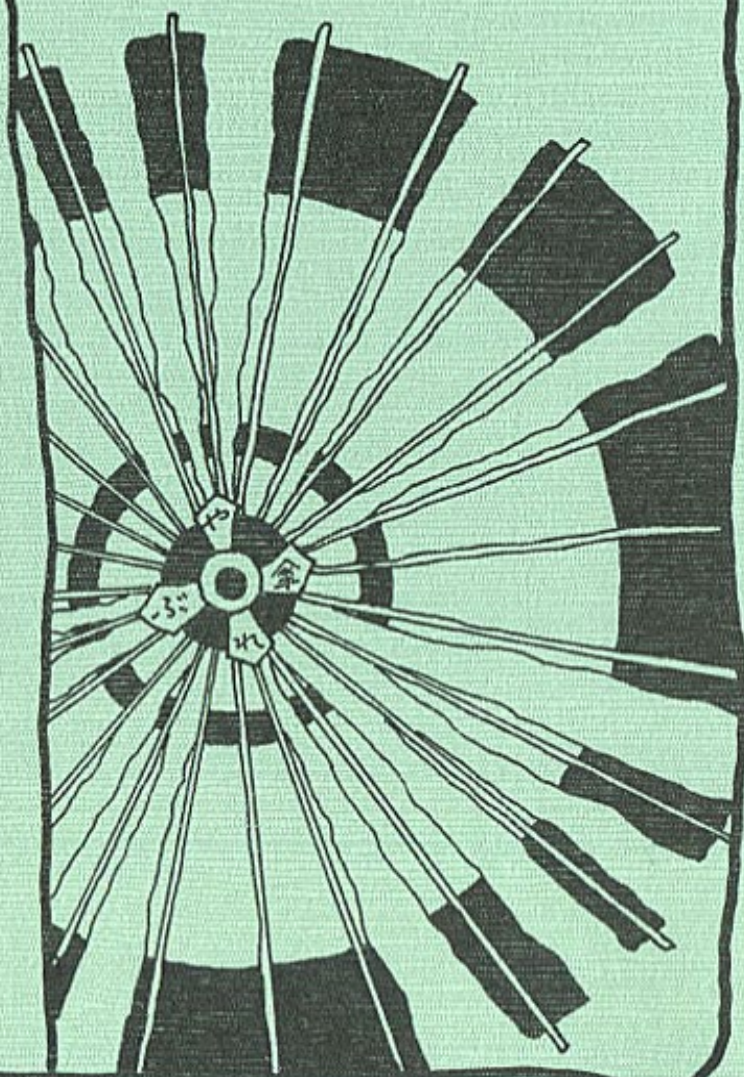


# やぶれ傘



八十八号

二〇一六年二月

きんつばに薄皮日脚伸びにけり 根橋宏次

焼き芋は皮も食べると妻の言ふ 廣瀬雅男

水仙を見に農道へ少し入る 大島英昭

漬け物の重しは二キロ寒に入る きくちきみえ

冬萌を見る新聞を取りに出て 藤井美晴

冬の夜の渋谷の空を飛行船 瀬島酒望

降り立ちて雁木づたひに菩提寺へ 安藤久美子

酒饅の蒸籠より湯気冬紅葉 丑久保 勲

芸大に三味線の音冬紅葉 小山陽子

十二月石釜にピザふくらみて 青谷小枝

下校放送刈田をわたる午後三時 白石正躬

初比叡川の流れの静かなる 渡邊孝彦

浦和まで二度乗り換えの初電車 久世孝雄

ひび割れをこそ吉として鏡餅 菊池洋子

兄の忌の鱧酒に火のぼつと点く 秋山信行

抄 集 句 傘 れ ぶ や  
選 夫 紀 崎 大

銀杏の弾けたるらし足の下 松村光典

初詣の社の空を飛行船 有賀昌子

飛車角を落として子らと初将棋 萩原溪人

ドナルド・キーン読みふける夜半の秋 広瀬 濟

朝霜のマンホールより湯気立ちて 増田みな子

皆帰りピアノに向かふ二日かな 森 美佐子

商店街列の先には福引き所 石塚清文

おでん屋のくるりと回すゆで卵 泉 一九

通過する駅の灯りや暮れはやし 奥田温子

椋鳥のガヤガヤザワワ闇の中 神山市実

夫にメモ葉付みかんを載せて置く 上林富子

「峠」とふ一文字の駅落葉降る 菊地葉子

山道の雨が霰となりにけり 小池一司

「イマジン」を聴く開戦日冬の虹 小巻若菜

山の背の動かぬ雲や年の果て 佐竹千代

ビー玉

大崎紀夫

ビー玉をビー玉に当てカチと冬  
きゆるきゆると冬の鶯張り廊下  
しぐるる夜池下へおりればジャズ酒場  
風花が電信柱よけにけり  
鷹のかげ倉敷川をよぎりけり

電灯の上に天井去年今年  
ぽこぺんとぽつぺん鳴らす雲なき日  
捨て雪のかたまりがゆく最上川  
綿ゴミを指でつまんで冬の昼  
冬深む隣りの椅子に鞆置き  
靴跡に散らばつてゐる霜柱  
石切場そばの早梅咲きにけり

きんつば

根橋宏次

七味屋はすこしはづれに三の西  
葉牡丹が自動扉の両脇に  
トンネルを抜けて鯨を食ひにゆく  
硝子戸に磨き残しが去年今年  
ご近所に神社があつて初詣  
何の実か分からぬほどに枯れてをり  
干し網は水仙群るるあたりまで  
海鼠腸や波にのまるる波殺し  
煮凝りの揺るるは都電過ぎにけり  
きんつばに薄皮日脚伸びにけり

焼き芋

廣瀬雅男

冬草や畦に残りし靴の跡  
焼き芋は皮も食べると妻の言ふ  
秩父路はごろ寝のやうに山眠る  
曇天の昼を灯して飾り売り  
煤払ひパソコンのみを置く机  
道の辺の稲荷の灯すお元日  
米袋積んで初荷の旗を立て  
雪晴れの空の端つこ昼の月  
陽だまりに群れて弾みて寒雀  
飛び石に日向と日蔭実万両

小 春

大島英昭

野良猫が屋根に来てゐる小六月  
錆びてゐるポンプを押してみる小春  
水仙を見に農道へ少し入る  
軽トラに落葉を積んでゐるところ  
だんだんに北風吹く午後となりけり  
廃材にトタンがかけてある七日  
枯 糶 男 体 山 が見えてくる  
庭隅に幣挿してある冬の薔薇  
西に日のうつすらとある雪もよひ  
たばこやの幟あかあか雪の朝

寒に入る

きくちきみえ

冬の夜のバナラアイスと塩せんべい  
不揃ひに揚がつてゐたるカキフライ  
胸元に赤子眠らせ冬コート  
真後ろにストーブありて魚焼く  
前掛けを取る熱爛の冷めぬうち  
大股の人が先ゆく空つ風  
板塀の日向の匂ひ枯葎  
ストーブを足元におくラーメン屋  
窓に雪積むグラタンの焼けるまで  
漬け物の重しはニキロ寒に入る



冬 萌

藤井美晴

冬波に埠頭のタイヤ洗はるる  
昼を灯して短日の魚市場  
明け方の流しを歩く冬の蜂  
リフトよりうさぎの跳ねし跡を見る  
初便りコパカーナの浜辺から  
初買のワイン二本の持ち重り  
人のこゑ冬桜咲くあたりから  
天窓の空の青さや雪のあと  
二十羽は芝に来てをり寒雀  
冬萌を見る新聞を取りに出て

飛行船

瀬島洒望

小春日や据わりの悪きカフエの椅子  
冬の夜の渋谷の空を飛行船  
除夜の鐘撞く行列に並びけり  
鈴懸の影を歩道に大旦  
福神詣まづ駅前地図を見て  
松明けて紙飛行機を飛ばしけり  
天窓の縁に凍てたる昨夜の雪  
新しき白衣を下ろす医務始め  
冬草をところどころに飛鳥山  
守衛所の屋根に重なる落葉かな

空つ風

安藤久美子

降り立ちて雁木づたひに菩提寺へ  
鳥の影雪見障子の向う側  
パスタ屋の幟ばたばた空つ風  
水かげるふ障子に朝はゆつくりと  
連鶴を折るひとときの炬燵かな  
竹藪を雪しづる音汽車の音  
海近し鏡に映る寒夕焼  
咳き込んでブルーベリーの味の飴  
豆の木の鉢置く縁に日向ぼこ  
一月のサウナに時を刻む音

冬紅葉

丑久保勲

银杏散るシルバードイの美術館  
キャンパスに軽トラ屋台椎落葉  
酒饅頭の蒸籠より湯気冬紅葉  
酒粕に布目ありけり鴨のこゑ  
夕暮れの明るさを増す冬至かな  
昨夜の雨ひかる電線冬ぬくし  
初詣の帰路にだんごを焼くにほひ  
初雪のけふは新橋演舞場  
パトカーのうしろに車列寒の入り  
出るときに追ひ焚きをする寒の風呂

冬の雨

小山陽子

ペット屋に子犬の匂ふ冬の昼  
芸大に三味線の音冬紅葉  
シヤシターを駅員の拭く師走かな  
湯沸しのがて静まる冬の夜  
迷ふ内に声遠ざかる焼芋屋  
ゆつくりと電車は駅へ冬の雨  
数へ日に一本伸びる髭を抜く  
笹鳴きのあたり幾度も覗きけり  
冬の夜の川の向かうに飲み屋の灯  
大寒の切られし枝のコンと落つ

## ◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	國保八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	東京人形町周辺	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月2日(日)のぎんなん会の会場は武蔵浦和コミセンです(第6集会室)。

3月4日(日)のなごみ会の会場は武蔵浦和コミセンです(第3集会室)。

4月17日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は水天宮境内。

吟行地は人形町周辺(神社・甘酒横丁・明治座)。句会場は芭蕉庵。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ